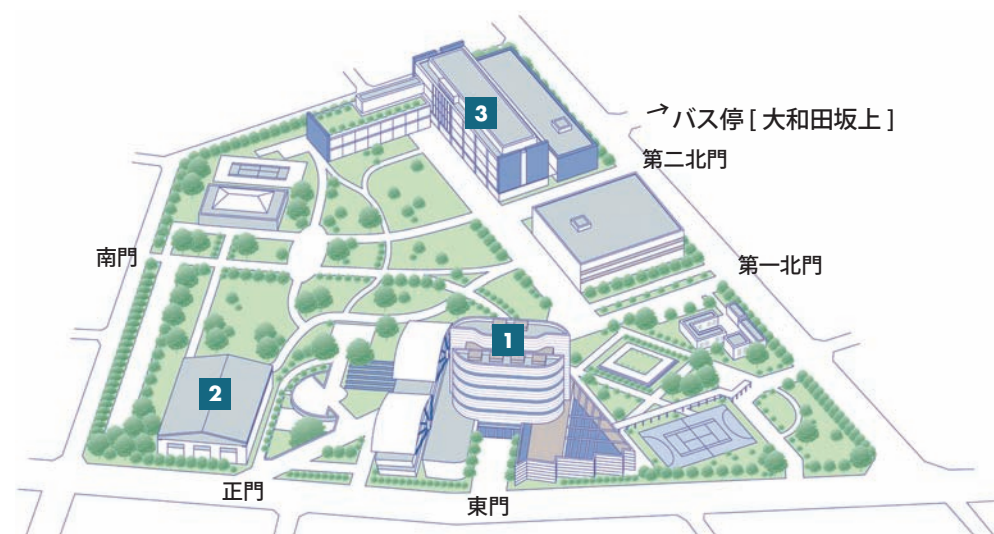


アンケート

アンケートへのご協力をお願いします。
ご回答いただいた方に、ノベルティグッズを差し上げます。
お帰りの際に、受付（体育館、4号館1階または2号館2階）にお立ち寄りください。

キャンパスマップ



1 2号館 / 2階

講演会場 受付
特別招待講演
学内講師講演

2 体育館

研究紹介会場 受付
研究紹介
シーズ紹介
個別相談

3 4号館 / 1階

研究紹介会場 受付
研究紹介

←バス停 [旭が丘中央公園]

所在地 〒191-0065 東京都日野市旭が丘6-6



アクセス

- ・JR中央線 [豊田駅] 北口から徒歩約20分、
または京王バス [平山工業団地循環] 乗車約10分
[旭が丘中央公園] 下車徒歩約5分
 - ・JR中央線 [八王子駅] 北口または京王線
[京王八王子駅] 西口から、京王バス [日野駅行]
または [豊田駅北口行] 乗車約15~30分
[大和田坂上] 下車徒歩約10分
 - ・JR八高線 [北八王子駅] から徒歩約15分
- ※お車での来場はご遠慮ください。



SYSTEM DESIGN FORUM

2018.10.3 [wed] 13:30-17:45

システムデザインプラットフォーム2018
首都大学東京システムデザイン学部・研究科

首都大学東京
日野キャンパス
(入場無料・事前申込不要)

お問い合わせ

公立大学法人首都大学東京
日野キャンパス管理部学務課
TEL 042-585-8613
イベント詳細はウェブサイトをご確認ください。
<https://www.seeds.sd.tmu.ac.jp/>

主催：首都大学東京システムデザイン学部／同大学院システムデザイン研究科

後援：東京都／日野市／八王子市
／東京商工会議所／東京都商工会
連合会／地方独立行政法人東京都立
産業技術研究センター／公益財団
法人東京都中小企業振興公社／
一般社団法人首都圏産業活性化協
会／タマティエルオー株式会社

工学分野の課題解決能力の養成と実践的研究に重点を置いていることが本学部の特長です。



いくつかの要因が複雑に絡み合った課題を解決するには、多分野を横断的に融合化した「システム技術」の理解と実践が不可欠です。このシステム技術を、機能と感性という2つの側面から総合的に研究教育するのがシステムデザイン学部です。2018年4月に組織再編が行われ、さらに機能が強化されました。本フォーラムは、本学部・研究科の研究活動の総括として、産学公連携による横断的プロジェクト研究の成果発表や、新しい組織の研究シーズ紹介、さらには今後の取り組みを議論する場です。この機会に、産業界をはじめ、多くの皆様の忌憚のないご批判とご指導を賜れば幸いです。

首都大学東京 システムデザイン学部長
同大学院 システムデザイン研究科長
諸貴 信行

システムデザイン学部・研究科概要（2018年5月1日現在）

システムデザイン学部・ 研究科	<設置学科・学域>	
	情報科学	学生数 1,781名(学部生1,239名、大学院生542名)
	電子情報システム工学	教員数 121名(教授53名、准教授36名、助教32名)
	機械システム工学	
	航空宇宙システム工学	
	インダストリアルアート	ホームページも合わせてご覧ください。 https://www.sd.tmu.ac.jp/

スケジュール

プログラム	会場	時間	13	14	15	16	17
研究紹介会場 受付	体育館入口、4号館1階	13:30～15:30		研究紹介会場 受付			
研究紹介(ポスター展示、実物展示)	体育館、4号館1階	13:30～15:30		研究紹介 <ポスター展示コアタイム 14:00～15:00>			
シーズ紹介	体育館	13:30～15:20		シーズ紹介			
個別相談(産学公連携、大学院入試)		13:30～15:30		個別相談			
講演会場 受付	2号館2階 ラウンジ	15:30～17:45				講演会場 受付	
特別招待講演	2号館2階 大講義室A・B	16:30～17:45					特別招待講演
学内講師講演		16:00～16:30				学内講師講演	

講演会 16:00-17:45 2号館2階 大講義室A・B

特別招待講演 16:30-17:45

「人工知能はどのようにして名人を超えたのか、そして我々の未来はどうなるのか」

山本 一成 - HEROZ(株)リードエンジニア、愛知学院大学特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員

AI時代の到来により、人類はこれからどうなっていくのだろうか。誰もに平等に訪れる未来の迎え方を一緒に考える60分。果たして人工知能は怖い存在なのか?どのように付き合っていけばいいのか?多くの人が漠然と感じる『AI怖いやつ理論』から脱却するために、名人を倒した将棋ソフトPonanzaの作者が、人工知能研究の最前線で知ったこれまでとこれからの話と、AIとの向き合い方をお伝えします。



学内講師講演 16:00-16:30

「言語はなぜ人工知能の問題になるのか」

小町 守 - 首都大学東京 システムデザイン学部 准教授

人工知能といえば何を想像しますか?ドラえもんでしょうか、それとも映画「マトリックス」の世界でしょうか。人工知能を理解し、活用するためには、わたしたちが使う「ことば」が重要な役割を果たします。本講演では、人工知能の最先端でどのような言語理解の研究が行われているか、そしてどのように言語処理の成果が活用されているか、を一緒に見ていきましょう。



シーズ紹介 13:30-15:20 体育館

システムデザイン学部・研究科ならではの先端的・学際的な研究シーズを、ショートプレゼンテーション形式で幅広くご紹介します。※開始時刻は目安です。多少前後することがございますが、ご了承ください。

13:35 頃～	ネット炎上の科学	情報科学科教授 會田 雅樹
スマートフォンやインターネットの普及に伴い、個人情報の情報交換が活性化し、通信ネットワークを介したユーザの行動が、ネットワーク内部にとどまらず現実の社会活動にも大きな影響を与えています。ネット炎上はそのような現象の典型例と言えます。本発表は、ネット炎上の発生メカニズムを説明可能な理論モデルの展開についてお話しします。		

13:43 頃～	コミュニティセントリックシステムに向けたソーシャルロボット開発	情報科学科教授 山口 亨
人と人をつなぐソーシャルロボットの開発における、センシング技術とデータ解析、知識獲得技術について紹介します。人の持つ知識を、センシングと連携したロボットインタラクションによって獲得することで、付加価値のある情報収集が可能です。例えば季節情報は地方やその年の天候によって異なりますが、ソーシャルロボットによってそのような変動する情報をアクティブに獲得することができます。		

13:51 頃～	大都市災害における災害情報共有化プラットフォームの研究開発	電子情報システム工学科教授 朝香 卓也
大都市での大規模激甚災害の発生時には、通信基盤の維持と災害情報・避難情報の効率的な伝達が必須です。現在の技術では、必要とされる通信基盤の維持と高効率な情報伝達が十分にはできないという問題があります。この問題を解決するため「災害時においても頑健な情報ネットワーク基盤」「災害時におけるユーザの集団行動ダイナミクス」「災害時における重要情報協調フィルタリング技術」について研究開発をおこなっています。		

13:59 頃～	非接触・生体計測を用いた医用スクリーニングシステムの開発	電子情報システム工学科教授 松井 岳巳
小型ドップラーレーダーなどを用いて求めた心拍・呼吸・自律神経活性などの生体情報を用いて、いくつかの疾患のスクリーニング・アルゴリズムを提案し、これを搭載した医用スクリーニングシステムを開発しています。10秒程度で感染の有無を判定し、感染症の流入を防ぐシステムを那覇や成田などの厚生労働省検疫所と共同開発し、また精神科医と共同で、うつ病発症に伴う自律神経失調傾向が判定できる椅子やスマートフォンアプリなどを開発しています。臨床医学的見地から、医用スクリーニングシステムを開発しています。		

14:07 頃～	エネルギーインテグリティシステム	電子情報システム工学科教授 清水 敏久
エネルギーの効率的活用を目指してパワーエレクトロニクス機器と情報通信機器を統合したスマートグリッドなどの大規模システムの研究開発が活発に行われています。一方で、パワーエレクトロニクス機器が発生する電磁ノイズが情報通信機器に動作障害を与え、システム全体の動作信頼性を損ねかねない状況があります。本フォーラムでは、パワエレ機器と情報通信機器の高度な電磁環境両立性に向けた最近の研究事例を紹介いたします。		

14:15 頃～	大規模データと統計的自然言語処理に基づく顧客要求の機械的抽出手法	機械システム工学科教授 下村 芳樹
製品・サービスの顧客満足度を向上させるためには、多様な顧客の要求を正しく理解するための手段が必要です。しかしながら、従来の社会科学的アプローチでは、これを客観的かつ効率的に行うことが容易ではなく、その成否が実施者の技量や経験に強く依存するという問題があります。本研究は、これまで極めて属人性が高かった顧客分析に対して、新たな計算機支援を導入することで、より客観的な類型化や要求抽出を可能とします。		

14:23 頃～	IoT、医療、バイオのためのマイクロデバイスの製造	機械システム工学科教授 楊 明
各種ナノ・マイクロ材料・加工技術を駆使したマイクロデバイスの製造技術、表面処理技術とこれらの技術を利用したマイクロデバイス開発事例として、金型内蔵センサー、イムノアッセイ用3D分析チップ、細胞刺激用デバイス、医療用金属マイクロポンプなどについて紹介します。		

14:31 頃～	微細加工技術のバイオ産業・医療応用展開	機械システム工学科准教授 三好 洋美
多くの動物細胞は、足場に接着をして生存しています。細胞は足場の物理特性—マイクロ・ナノメートルオーダーの微細構造やかたさ—を感知し、応答して性質(増殖性・分化状態)やふるまい(運動性)を変化させることが知られています。この応答性を利用して細胞の分化状態・運動性・増殖性を操作する足場材料のデザインの確立を進めています。		

14:39 頃～	細胞レベルの力学状態評価手法の紹介	機械システム工学科准教授 坂元 尚哉
我々の身体を構成する細胞は周囲の力学環境に応じて形態や機能を変化させ、生理・病理に深く関与することが知られています。応答を示す際、細胞は内部構造のみならず力学的な状態も変化させ、力学環境へ適応していると考えられています。本発表では、細胞の力学的な状態を調べる研究に用いられる微小な力や変形を評価する手法を紹介します。		

14:47 頃～	航空宇宙分野における分布定数系に対するGP/CPUの適用事例	航空宇宙システム工学科准教授 田川 俊夫
時間や空間に依存するシステムを分布定数系といい、このようなシステムのダイナミクスは偏微分方程式によって記述されます。近年そのモデリングや解析があらゆる分野において求められており、解析を高速かつ高効率に実行するためにはGPUとCPUの双方の利点を融合させた並列計算が有効です。本発表では、航空宇宙分野における分布定数系に対するGP/CPUの適用事例を紹介します。		

14:55 頃～	超小型衛星のための共有系を有する分散型アーキテクチャの研究開発	航空宇宙システム工学科教授 佐原 宏典
現在世界で活況な重量50kg以下の超小型衛星は、現状の単位質量当たりの開発費は従来とほぼ変わらず500～1000万円/kgであって、産業として自立する100～200万円/kgには程遠いです。本研究では、人工衛星に分散型アーキテクチャを適用し、さらに衛星各系の情報を蓄える共有系を設け、各系の開発を共有系との一対一の関係に限定して工数・工程を減じさせ、超小型衛星の低価格化を実現することを目指します。		

15:03 頃～	高効率最適化法と空力最適設計への適用事例	航空宇宙システム工学科准教授 金崎 雅博
空力など工学に関わる物理現象を高精度に考慮した機械設計において、最適な設計解を求めることは容易では無く、実験や数値計算を繰り返す必要があります。しかしながら、こうした設計は高コストであり、設計ループの効率化が望まれます。本発表では、実験、高精度数値計算とも低コストに組み合わせることができる最適化法と関連する最新の研究を紹介します。事例から、最適化アルゴリズムを実問題に適用する際のコツも解説します。		

15:11 頃～	デザインの時代	インダストリアルアート学科教授 難波 治
機能や技術を低価格で市場に提供する時代は終わり、それらの機能や技術をどのように活かして新たなサービス価値として創造できるかが勝敗を別ける時代に入っています。このような時代に生残するには戦略的なデザイン思考をベースとした企業戦略が必須です。当学科にはそれらを達成可能にするプロダクトデザインやグラフィックデザインを軸とした極めて有用な研究室があり、それらを率いる実務経験豊かなデザイナー陣(教授ら)は地域・企業に高く貢献することが可能です。		

システムデザイン学部・研究科に所属する研究室及び研究グループ等が、ポスター展示や実物展示を行います。各展示を分野別に分類し、最新の研究成果や取り組みについてご説明します。ポスター展示はコアタイム（14：00～15：00）を設けています。

（1）ポスター展示

展示位置、発表タイトル等については、P6 ～ 7 のフロアマップをご参照ください。

（2）実物展示

展示概要は、以下をご参照ください。展示位置等については、P6 ～ 7 のフロアマップをご参照ください。

情報科学科・学域

「音光変換デバイス"Blinky"とビデオカメラを用いた分散音響センシング」

小野研究室【フロアマップ 体育館：CS-01】

私たちは「光で音を見る」新しい音情報処理の研究をスタートしました。この研究では、マイクロホンとLEDにより音の強さに応じて光の強さが変わるBlinky（ブリンキー）という小型デバイスを開発し、これを分散配置してビデオカメラで観測することにより、有線接続や無線通信を用いず、広い範囲の音の情報を光で集めます。本展示ではBlinkyの実物や、音の位置推定、雑音除去などの応用について紹介します。



開発したBlinkyの基板（左）と外観（右）

「コミュニティセントリックシステムに向けたソーシャルロボット開発」

山口・下川原研究室【フロアマップ 体育館：CS-02】

人と人を結びつけるソーシャルロボットの研究を行っています。センシング技術と組み合わせたインタラクションによって、人からアクティブに知識を収集するシステムを提案しています。表情や音声情報、生体情報などを活用し、雑談対話などによって季節情報などをアクティブに収集することで、ローカルコミュニティにおける常識を獲得可能なロボットシステムを目指しています。



ソーシャルロボットを用いた知識獲得

電子情報システム工学科・学域

「生体情報をを用いた疾病早期発見システムの研究」

松井研究室【フロアマップ 体育館：EECS-01】

小型のドップラーレーダーやサーモグラフィなどを用い、呼吸・心拍・体温などの生体情報をモニタリングすることで、心と体の問題に取り組む研究を行っています。感染症やうつ傾向の有無、睡眠の深さ、慢性閉塞性肺疾患（COPD）などを判定するデバイスを開発してきました。フォーラムでは開発中のデバイスを展示します。



感染症の有無を10秒で判定するシステム "KAZEKAMO"（金研究室との共同開発）

「音の世界と工学応用 ～聞こえる音と聞こえない音～」

波動情報工学 大久保研究室【フロアマップ 4号館1階・IAギャラリー：EECS-02】

世界には音があふれています。ヒトの可聴できる周波数帯域は一般には20kHz程度までとされていますが、我々の暮らす世界には、聞こえる音から聞こえない音まで、様々な音があふれており、これをうまく使いたいですね。本研究室では、ヒトが聴こえない可聴域外の音の計測・識別・センシングなど様々な利用をしています。このブースでは、そのいくつかを紹介したいと思います。

超音波を使った非接触ピッキングアップ



機械システム工学科・学域

「システムデザインで支援するアクセシブルスポーツ」

傾斜的研究費（全学分）学長採択枠【フロアマップ 体育館：MSE-01】

本研究では、アクセシブルスポーツを支援するためのシステムデザインの研究として、システムデザイン学部を中心に健康福祉学部の協力のもと進めている以下の2つのプロジェクトを紹介します。

1. 車椅子楽器・プロジェクト：車椅子スポーツを支援する！楽しくトレーニングできる車椅子楽器
2. ロボットチャ・プロジェクト：誰もが同じクラスで楽しめる「ロボットチャ」の開発



車椅子楽器とロボットチャ

「スマートデバイスを用いた人に優しい情報支援システム」

久保田研究室【フロアマップ 体育館：MSE-02】

本研究室では、スマートデバイスを用いたロボットパートナーシステムを提案しています。ロボットパートナーとのコミュニケーションを用いて健康意欲の創発や、社会参加を促し、見守り支援を行うことでロボットパートナーが生活の一部になることが可能になるように研究開発を行っています。今回は「iPhonoid」など、ロボットパートナーを展示し、スマートデバイスならではの機能を活用した、コミュニティ支援について紹介します。



見守りや案内を行うロボットパートナー

「EDIPS：製造業のサービス化のためのエデュテイメントツール」

下村研究室【フロアマップ 体育館：MSE-03】

製品サービスシステム（PSS）の設計においては、製品ライフサイクル全体を通じてサービスを提供し自社製品の価値を高めることが期待されています。しかしながら、例えば工学系の人材が、横断性の高いPSSやその設計の観点を習得することは決して容易ではありません。当研究室では、上記の観点を容易に体得可能なエデュテイメントツールであるEDIPSと呼ばれるビジネスゲームの開発を通じて、PSS設計の社会浸透に貢献しています。



PSS体感エデュテイメントツール EDIPS

「ドローンIoTシステムを中核とする製品サービスシステムの開発」

下村研究室【フロアマップ 体育館：MSE-04】

近年問題視されている農業分野の獣害発生エリアや大型災害の被災時など、人間が容易に立ち入れない環境における情報把握手段として、ドローンの活用が期待されています。しかし現状では、ドローンの操縦や導入コストなどの諸問題の存在により、例えば中小事業分野でのドローン導入における障壁が指摘されています。当研究室は以上の問題を解決し、中小事業分野におけるドローンの普及を加速するビジネスモデルをPSSの観点から提案する先駆的な研究に取り組んでいます。



ドローン空撮画像分析を中核とするPSSビジネス構想

航空宇宙システム工学科・学域

「ハイブリッドロケットに使われている技術」

燃焼・推進工学 櫻井研究室【フロアマップ 体育館：AA-01】

現在、宇宙分野では超小型衛星を用いた地上観測が盛んになっています。一方で、超小型衛星を打ち上げるためのロケットは限られており、その需要に応えられていない現状があります。当研究室では安全性が高く、低コストなハイブリッドロケットの研究開発を行っています。今回はハイブリッドロケットに使われている様々な構成部品を展示します。



（左）小型ハイブリッドロケットの打上げの様子
（右）推力1.5kNハイブリッドロケットの燃焼実験

インダストリアルアート学科・学域

「KADEN Project 2018 -Design×Engineering Thinking-」

研究プロジェクト演習（5）【フロアマップ 4号館1階・IAギャラリー：IA-01】

KADEN Projectは、社会やユーザの要望を融合させ既存の製品開発とは異なる角度からのアプローチでデザインする、「新しい製品開発を実践する」ことを目指しています。これはシステムデザイン思考に基づいた統合知によって、いままでにないモノづくりを行うためです。今年度は、コニカミノルタ株式会社との協働プロジェクトとして実施しました。新しい家電製品への応用提案を念頭において実働するプロトタイプを発表します。



DC EXPO STUDIOでのプレゼン

「島しょエリアの産業活性化プロジェクト」

Research core "serBOTinQ"【フロアマップ 4号館1階・IAギャラリー：IA-02】

本学のリサーチコア"serBOTinQ"では、最先端のICT、IoT、ロボット技術を活用し、デザイン思考を応用したアイデア創出→具体化→事業化といった一連のプロセスに対して学際を越えた複数教員と協力企業が一体となって取り組んでいます。本プロジェクトでは、serBOTinQでの成果を活用し、島しょの産業活性化のための「次世代ソリューション開発ワークショップ～島しょ活性化をテーマとした高校生によるアイデアソン～」の成果を紹介します。



島しょでのワークショップ

「自立型EVパーソナルモビリティの展示」

トランスポーターデザインスタジオ【フロアマップ 4号館1階・IAギャラリー：IA-03】

観光都市東京への来訪者は年々増加の一途を辿っています。展示の乗り物は外国から東京を訪れたお客様が、迷うことなく東京を巡ることができる観光用パーソナルモビリティです。もちろん日本のお客様も大歓迎。発想のヒントは人力車。東京観光のイメージを最も表す乗り物をイメージしています。操作パネルに自国語で行き先を入力すれば2輪の自立+自律走行で観光案内をしてくれるという乗り物です。



自立型EVパーソナルモビリティの実物大モックアップ

学外機関

「公社が支援する多摩地域の優れた中小企業」

公益財団法人東京都中小企業振興公社【フロアマップ 体育館：OT-01】

創業から新製品・新技術開発（産学共同開発も含みます）、デザイン導入・活用による生産性向上など新たな分野に果敢に挑戦する都内中小企業や創業予定者を経営面から支援する東京都の団体です。今回は多摩地域の優れた支援企業2社（高機能と機能美を備えたチューブポンプのリーディングカンパニーと国産唯一のPBF方式3Dプリンターメーカー）をご紹介します。



（左）(株)ウエルコ「チューブポンプ」
（右）(株)アスペクト「PBF方式3Dプリンター」

「追従型案内ロボット「チリンロボット」

地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター【フロアマップ 体育館：OT-02】

（地独）東京都立産業技術研究センターのマスコットキャラクター「チリン」を追従型案内ロボットとして開発しました。特定した人物の後ろを自動で追従し、会話をすることができます。国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）の多言語音声サーバを使用し、日英中韓の多言語会話や、外部ディスプレイを利用した施設案内、翻訳、乗換案内などを体験いただけます。



追従型案内ロボット「チリンロボット」

（1）産学公連携に関する相談コーナー

産学公連携に関するご相談をお受けします。また、ご希望の方には、各種資料をお配りします。

（2）大学院入試に関する相談コーナー

大学院入試に関するご相談をお受けします。また、ご希望の方には、各種資料をお配りします。

研究紹介・個別相談フロアマップ

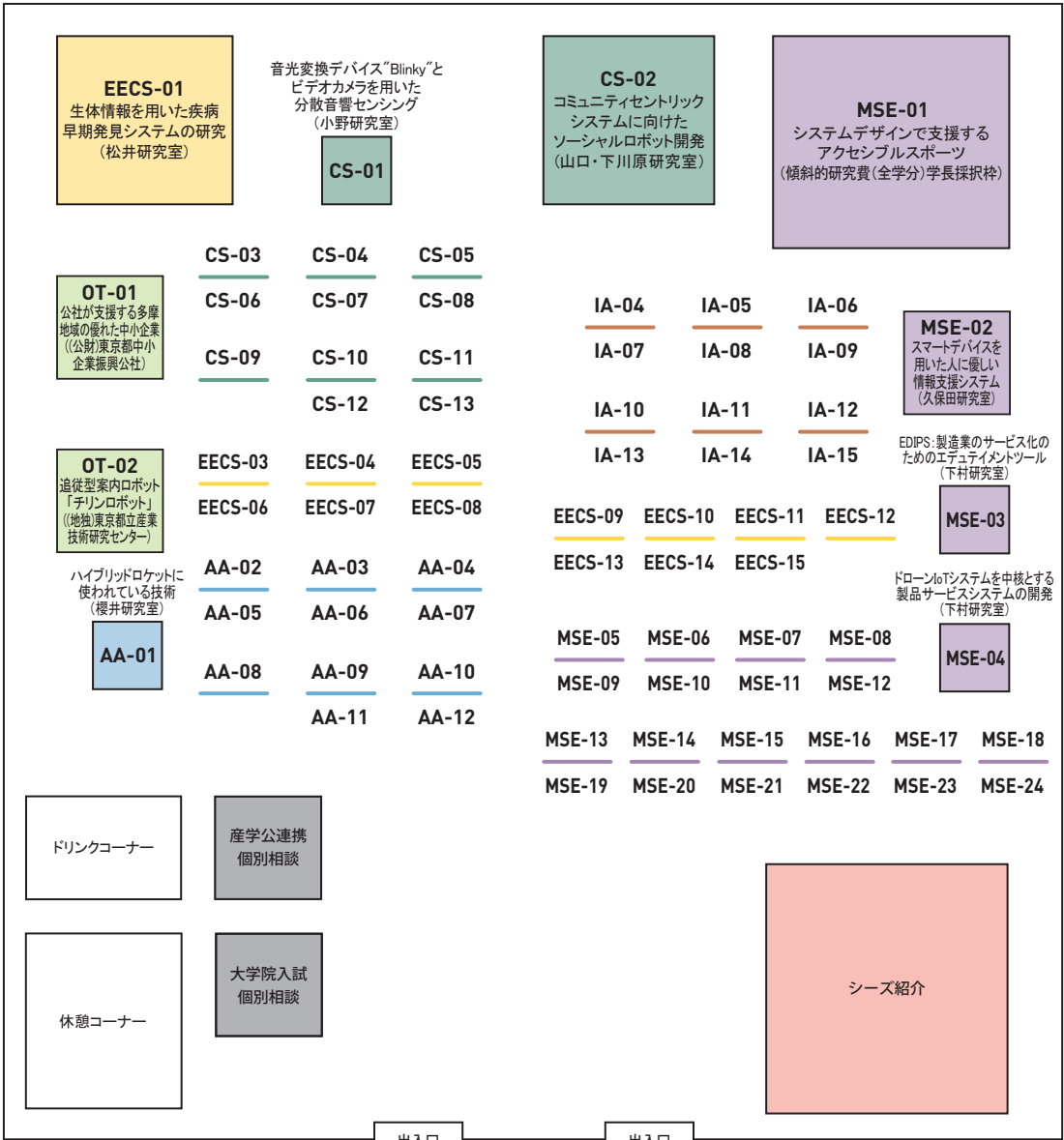
情報科学科・学域		
フロアマップ	発表タイトル	研究室・研究グループ
CS 01	音光変換デバイス"Blinky"とビデオカメラを用いた分散音響センシング	小野
CS 02	コミュニティセントリックシステムに向けたソーシャルロボット開発	山口・下川原
CS 03	ソーシャルビッグデータの研究	石川
CS 04	Web インテリジェンス研究紹介	高間
CS 05	ドローンによる情報ネットワーク構築技術	松田
CS 06	三次元 CAD アセンブリモデルの高精度な検索方法の開発	片山
CS 07	地理的な偏在性と遍在性の科学	横山
CS 08	インタフェースの使いやすさとセキュリティ	西内
CS 09	深層学習を用いた自然言語処理	小町
CS 10	ヒトの知覚・行動特性に関する認知科学的研究	福井
CS 11	人間関係のネットワーク構造の解明に向けて	會田
CS 12	バーチャルリアリティと超臨場感	池井
CS 13	画像および音声の高品質化に関する研究	貴家

電子情報システム工学科・学域		
フロアマップ	発表タイトル	研究室・研究グループ
EECS 01	生体情報を用いた疾病早期発見システムの研究	松井
EECS 02 15	音の世界と工学応用 ～聞こえる音と聞こえない音～	大久保
EECS 03	次世代 ICT サービスを支える情報ネットワークシステム技術	朝香
EECS 04	サステナビリティと人道支援に寄与するサプライ・チェーン・マネジメント	開沼
EECS 05	生産技術	梶原
EECS 06	災害復旧への応用を目指した協調タスク割当アルゴリズム	福本
EECS 07	フリップフロップの電源ノイズ対策	三浦
EECS 08	課題解決のための経営工学的アプローチ	山本
EECS 09	暗号領域における機械学習アルゴリズム	酒井
EECS 10	シンプルな計画立案による生産の管理	渋谷
EECS 11	メディア信号処理アルゴリズムの高性能化に関する研究	西川
EECS 12	水蒸気ライダーによる首都圏シビアストームの発生予測	阿保
EECS 13	医用超音波工学及びコンピュータビジョンに関する研究	田川
EECS 14	光を利用したセンシングシステムの開発	柴田

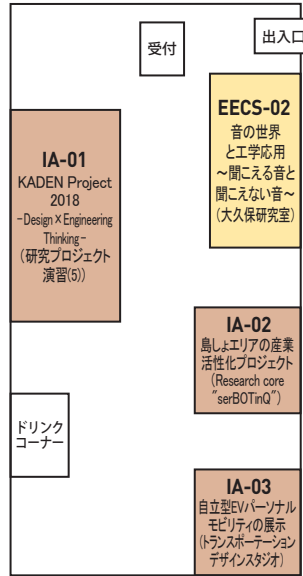
航空宇宙システム工学科・学域		
フロアマップ	発表タイトル	研究室・研究グループ
AA 01	ハイブリッドロケットに使われている技術	燃焼・推進工学 (櫻井)
AA 02	乱流遷移と空力騒音に関する研究	空気力学 (浅井・小澤)
AA 03	数値流体力学における GPU 並列計算	数値流体力学 (田川)
AA 04	電気推進の現状と未来：イオンエンジンのその先は？	プラズマ推進工学 (竹ヶ原・渡邊)
AA 05	壁面加熱による流れの制御に関する研究	航空推進工学 (稲澤)
AA 06	実機構造適用に向けた先進複合材料の開発	航空宇宙構造力学 (渡辺)
AA 07	ボーラスアルミニウムによる小型月着陸実証機の衝撃吸収	材料工学 (北園)
AA 08	CMG 搭載衛星モデルの微小重力下での姿勢制御実験	宇宙機力学制御 (小島)
AA 09	将来の航空交通管理	航空宇宙システム運用工学 (武市)
AA 10	未来の宇宙を創造する～革新的宇宙システムの提案	宇宙システム (佐原)
AA 11	HPC 環境を活用した航空機・宇宙機の設計と評価	計算機援用機体設計学 (金崎)
AA 12	地球環境のリモートセンシング	リモートセンシング (牛尾・鳥阪)

学外機関		
フロアマップ	発表タイトル	機関名
OT 01	公社が支援する多摩地域の優れた中小企業	(公財)東京都中小企業振興公社
OT 02	追従型案内ロボット「チリンロボット」	(地独)東京都立産業技術研究センター

【体育館】（P.8キャンパスマップ 2）



【4号館1 階・IAギャラリー】（P.8キャンパスマップ 3）



機械システム工学科・学域		
フロアマップ	発表タイトル	研究室・研究グループ
MSE 01	システムデザインで支援するアクセシブルスポーツ	傾斜的研究費(全学分)学長採択枠
MSE 02 05	スマートデバイスを用いた人に優しい情報支援システム	久保田
MSE 03 06	EDIPS：製造業のサービス化のためのエデュテイメントツール	下村
MSE 04 07	ドローンIoTシステムを中核とする製品サービスシステムの開発	下村
MSE 08	高い機動性と拡張性を有する多目的広域見守りシステム エンカウンターロガー	下村
MSE 09	太陽光発電大量導入時の予測協調制御	児島
MSE 10	データ駆動アプローチによる制御器設計のその応用	増田
MSE 11	人をパワーアップするロボット技術開発	武居
MSE 12	コンビニ店舗における商品陳列作業の自動化に関する研究	和田
MSE 13	宇宙から医療まで－複合材料工学	小林
MSE 14	特殊微細加工法と表面機能	表面機能(諸貴)
MSE 15	次世代表面処理技術による高機能ナノ材料の創製	先端材料加工学(橘)
MSE 16	薄膜を利用したナノ・マイクロ構造の作製技術とその応用	金子
MSE 17	熱発電の実現に向けた材料基礎研究	機能材料物性(菅原)
MSE 18	作業姿勢による身体負担の人間工学的評価	応用人間工学(瀬尾)
MSE 19	身体運動の生体力学的評価技術に基づく健康福祉用具の開発	人間機械システム(長谷)
MSE 20	生体関節のバイオメカニクス	バイオメカニクス(藤江)
MSE 21	生体内現象を再現する計算科学アプローチ	生体計算科学(伊井)
MSE 22	臓器工学がつなく未来	臓器医用工学(小原)
MSE 23	「機械」で理解する生体応答：メカノバイオロジー	メカノバイオロジー(坂元)
MSE 24	バイオマテリアル設計の基礎を支えるメカノバイオロジー研究	応用メカノバイオロジー(三好)

インダストリアルアート学科・学域		
フロアマップ	発表タイトル	研究室・研究グループ
IA 01	KADEN Project 2018 -Design×Engineering Thinking-	研究プロジェクト演習(5)
IA 02	島しょエリアの産業活性化プロジェクト	Research core "serBOTinQ"
IA 03	自立型 EV パーソナルモビリティの展示	トランスポートーションデザインスタジオ(難波)
IA 04	環境保全と移動のデザイン	エルゴノミックデザインスタジオ(笠松)
IA 05	エビデンスベースドデザインを用いた産学連携プロジェクト紹介	インテリアデザインスタジオ(藤原)
IA 06	インテリアデザインスタジオの活動と作品紹介	製品・サービスデザイン(金)
IA 07	製品・サービスデザインスタジオ紹介	インタフェースデザインスタジオ(馬場)
IA 08	人と世界をつなぐ為のインタフェースデザイン	Spatial Design Studio (Verl)
IA 09	Introduction of Spatial Design Work	ヴィジュアル・コミュニケーションデザイン(菊竹)
IA 10	ヒトとマチをつなぐデザイン	インタラクティブアートスタジオ(串山)
IA 11	インタラクティブアートスタジオの活動紹介	映像デザインスタジオ(今関)
IA 12	Deep Learning を活用した Fake 画像生成	エディティングスタジオ(楠見)
IA 13	編集と出版コミュニケーションのデザイン	ソフトウェアデザインスタジオ(向井)
IA 14	次世代デジタルコンテンツ制作支援ソフトウェア技術	ネットワークデザインスタジオ
IA 15	ネットワークデザイン作品の展示	